

よえもん

2016年1月

第 33 号

シリーズ
よえもん

お
久さん



藤樹先生が30歳のときに、

伊勢亀山藩の高橋家から、久さんをお嫁にもらいました。

久さんは、心あだやかでしとやかな人でした。

藤樹先生や家族、門人たちの世話や、畑仕事

など、一生けんめいに働きました。しかし、

藤樹先生のお母さんは、久さんの顔立ちがあまりよくないからと、先生に離婚をすすめました。

その時に、先生はきっぱりと言いました。

「お母さん、お母さんの考えは間違っておられます。

顔立ちで人の尊さが決まるものではありません。

「久は、たいへんかしく、やさしい心を持って

います。どうか離婚などは口にされないでください。」

こうして藤樹先生と苦勞を共にしていた久さんは、二人目の

男の子を産んだあと、26歳でなくなりました。藤樹先生は、あふれる涙を止めることはできませんでした。

藤樹先生が久さんのために書いた、ひらがなの「孝経」は記念館で展示、しています。



今月のことば



春の花秋の紅葉と
うつりいく色は
色なき根にぞ
あらわる

書・洲田瑞穂さん
出典・中江藤樹の和歌

この和歌は、「季節とともに移り行く種々の花や葉の色のもとは、根に備わっている。根本をしっかり築くことで、花や葉の色は、毎年同じ色をおろすのだ」と解釈することが出来ます。一方、藤樹先生は、この和歌には「止於至善」という題をつけています。「至善」とは「ほかと比べようがない善」のことです。「止於至善」とは、「至善」に達することを目標にして、よく努力を重ね それに到達できたなら、その後は動搖して良くない行動をとることが絶対ないように、いつも精一杯はげみ続けることが大切である という意味です。みなさん、この和歌をとおして、改めて「致良知」について考え、いっしょに実践していきましょう。

きねんかんだよ 記念館便り

新年あけまして おめでとうございます。

本年もよろしくお願ひします。職員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

去る、12月2日に今津中学校一年生の生徒さんたちが、フィールドワーク活動で、ご来館くださいました。その際の生徒さん手づくりの活動内容新聞を掲示させていただいております。

また、第28回企画展「中江藤樹ならびに藤樹家を支えた人たち」では、藤樹先生の三男 弥三郎や門人たちが備前岡山藩の学校奉行に登用されたことを記す「諸職交替簿冊」(複製)や藤樹先生と熊沢蕃山の合作真跡も展示しております。ぜひ、ご来館下さい。

記念館さんぽ



2016年は申年
記念館近くに庚申塔があります。「見ざる、聞かざる、言わざる」の3匹のサルをきざんだ石を見つけたにきてください。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

